

# ひらつか防災ニュース

平成 26 年 3 月

編集・発行：ひらつか防災まちづくりの会

ひらつか防災ニュースは、市内自主防災組織の活動の紹介他、防災活動に役立つ情報を市民・地域の皆様に提供することを目的としています。

## 防災懇談会 「今、地域で何ができるか」より 講話～次の首都圏巨大地震を読み解く～ 神沼克伊氏

防災関連活動者にお呼び掛けして、平成 25 年 11 月 9 日（土）平塚市民活動センターで、防災懇談会を実施しました。懇談会に先立ち講師の神沼克伊氏から「抗震力」についての講演をいただき、参加者によるグループディスカッションを開催しました。

### ～ M 9 シンドローム ～

2011 年 3 月 11 日以来、明日にでも M 9 の地震が起こるかのようにおもわれ、人々はおびえている。神奈川県では、湘南海岸を襲う津波の最大の高さを 14.47m としている。いずれも現実味が乏しく、住民にただ不安を与えているだけである。

### ～南関東の地下～

首都圏である南関東の地下は 3 つのプレートが集まっている地球上でも特異な場所であり、宿命的に地震活動も活発である。その中で M 7 クラスの関東地震も発生している。

### ～明応 4(1495)年と

### 明応 7(1498)年の地震～

鎌倉幕府の年代記「鎌倉大日記」には明応 4 年鎌倉が大津波に襲われた記述がある。ところが史上最

大の津波被害をもたらしたといわれる明応 7 年の東海地震の記述はない。そのことから、一部の研究者は明応 4 年の地震は明応 7 年の地震の誤記であるとしているが、演者は被害状況などから明応 4 年の地震は実在し、それは関東地震であったと考えた。

### ～4 回は追跡できる関東地震～

これまでの関東地震は大正（1923）、元禄（1703）の 2 回と考えられていたが、それに明応（1495）が加わる。更に探すと仁治（1241）にも鎌倉が津波に襲われた記録がある。これから考えると関東地震は 200～250 年程度の間隔で起こっている。また鎌倉が被害に襲われるのは関東地震だけであると考えるとよさそうだ。

### ～次の関東地震はいつか～

過去 4 回の関東地震から考えれば、次の関東地震は 2130～2180 年つまり 22 世紀の中ごろと考えてよさそうである。ただしその 100 年前の 21 世紀中ごろから南関東では M 6～7 クラスの地震が発生する。



神沼 克伊氏

### ～地震の備えは抗震力～

神奈川県ではこれまで小田原地震に代表される内陸型の地震の発生も心配されているが現在の地震学では内陸の地震の発生を予知することは不可能である。それは地震の前兆をとらえられるほど観測網が充実していないからである。したがって地震への備えは常に必要である。それを演者は「抗震力」としてまとめた。「万が一」という言葉がある。地震ばかりでなく、どんな自然災害に対しても、「万が一」に備える特効薬はなく、毎日の努力の積み重ねが重要である。

### 講師紹介 神沼 克伊（かみぬま かつただ）氏

主な著書：「次の首都圏巨大地震を読み解く」「首都圏の地震と神奈川」  
総合研究大学院大学名誉教授(固体地球物理学)・国立極地研究所名誉教授。

東京大学大学院博士課程修了と同時に東京大学地震研究所入所。第 8 次日本南極地域観測隊地球物理担当として昭和基地で越冬。以降南極出張 15 回、当地には「カミヌマクラッグ（岩峰）」「カミヌマブラフ（崖）」と命名された地点がある。

# ～～ 地域防災の取り組み ～～

## ～ 防災訓練で安否確認 参加率75% ～ 平塚ニューライフ自主防災会

築30年、それに伴う住民の高齢化を危惧する平塚ニューライフ自主防災組織は、「年を取ってもまだまだ自分たちで！」の意気込みで、支え合うコミュニティ作りに励んでいます。

10月13日の防災訓練では『マンネリ気味の訓練に、住民が参加したくなる工夫を!!』と、例年の訓練に幾つかの新しい試みを加えました。

### ① 安否確認黄色いリボン【新】

午前9時「地震発生」を想定、安否確認法として「大丈夫なら玄関ドアに黄色いリボンを表示する」とし、防災担当が各階ごとに確認回収を行いました。リボン掲示に住民の75%が参加しました。

### ② セルフリンパ講習【新】

「足腰元気に自分の命は自分で護る」「エレベーターがなくても避難できるように」を合言葉に、リンパ体操マッサージを行いました。参加者から「日ごろから続けていきたい」との声も上がりました。

### ③ 具転倒防止実験【新】

家具転倒防止は「重心」の移動でも防げることなどを実験で理解して頂きました。

### ④ 災クイズ

防災クイズ難問に、自主防災会リーダー熊澤長谷川両氏が、まことしやかに正誤で答え、参加者がどちらかを

選択していただきました住民の笑いや「やっぱり！」などの反応で盛り上がりと共に、「なるほど納得」と理解して頂きました。(設問例:ニューライフ自主防災組織の大切な目標は「?」「?」等)

### ⑤ 炊き出し

毎年、住民主婦が集まり、腕によりをかけて作る工夫の炊き出し、今年度はちらしずしと三瓶汁を、参加住民皆で丸くなり、おしゃべりしながら頂きました。

平塚ニューライフに限らず、市内のどの地域でも高齢化が目立ってきています。元気な者も若者も、いつかは災害時要援護者になる可能性があります。自分の身は自分で守る備え・足腰や心身の健康に努める一方で、次世代の負担を軽減できる仕組みや対策を、各地域事情に合わせて考えていきたいものです。



安否確認の黄色いリボン

## ～ 学習講座を実施

南原地区では毎年 連合会として大規模な防災訓練を実施しています。

平成25年の10月25日に南原小学校で開催した訓練では、平塚市とひらつか防災まちづくりの会の協働事業に参加された山口横宿自治会長が窓口となつての依頼を受けひらつか防災まちづくりの会が防災意識向上のための学習講座を担当しました。

当日はあいにくの雨模様にもかかわらず多くの住民が熱心に参加。校庭から体育館に会場を移して開所式が行われた後向原 横宿 上町 鍛冶町 ルネ 土手新東町 等7つの町内会を3班に分けて時間をずらしながら50名前後で受講。ひらつか防災まちづくりの会の篠原、添田、相原、山田が「クイズ&解説」方式で南原の地域の特徴を知って起こりうる災害のイメージを持つことの大切さを訴えました。

自分たちの住む地域は川の合流点であることや道が狭く交通量が多いところがある等の課題や平坦で土砂崩れの心配はなく市民病院がある等の利点も考え日頃からきめ細かな防災活動を進める必要性等を考えていただきました。地学教諭相原会員の各種ハザードマップ

の解説にも丁寧に耳を傾ける姿が見受けられました。連合会長からは避難誘導訓練、炊き出し訓練。消火器訓練等と共に今後も災害に対処する学習会を継続していきたいとの感想やこれからも市民病院との訓練協力や小学生の合同訓練参加にも力を入れたいとお言葉があり、今度は児童参加の防災教育でもサポートできればよいのではと感じる有意義な訓練参加でした。

ひらつか防災まちづくりの会では各地域の防災活動のサポートも積極的に行っていますのでお気軽にお声をおかけください。



## 「何をどこまでやればいい…？」 ～ 防災懇談会 ～

平成25年11月9日に開催した「防災懇談会」には、各自治体から25人の参加をいただき、神沼克伊教授の講演の後、須賀新田自主防災会：藤嶋武憲氏から平成25年4月に実施した「抗震力調査報告」そして、2班に分かれ、各自治会が抱える課題について話し合いを行い

### ☆ 1班発表

- ・災害時要支援者について協力できることがあればしたいが個人情報取り扱いが壁になっている。
- ・絆の旗、防災リーダーが毎年変わることが課題。
- ・地域の自主防理解を深めたい。
- ・マンション：地域とのつながりが浅くて自主防災を作った。地震よりその後の火災に危機を感じている、
- ・大地震はすぐに来ないのでじっくり準備することを理解。馬入側の堤防が心配だったが、できることからやっていきたい。
- ・自分の身は自分で守る、できることからお手伝い。
- ・自治会の防災訓練で個別によびかけたところ、足腰の弱い方から抗議を受けた。

### ☆ 二班発表

#### ① 自分自身が賢くなる。

- ・シミュレーション 安全な場所
- ・向こう三軒両隣 仲良くして置く。…老人会で情報交換 とてもいい。
- ・地域の地盤について知っておく。
- ・インフラが止まった時の対策。マンションは避難する必要がないがインフラが止まった時はどうするか。
- ・直下型地震への激震への対策。
- ・3・11で大津波の恐怖がすりこまれた。

対策は、「自然に対しては受け身ではダメ、いざという

ました。

時に生き延びることが必要」

理解しなくても何をやればいいのかを知って頂くことが重要。



#### 参加者アンケートより

- ・各地区の取り組み状況を理解できました。
- ・津波に関心が集中しすぎているとの認識を持った。
- ・「抗震力」という概念が判った
- ・大地震が100年は来ない⇒安心してじっくり考えたい、自分の考えを持つ。
- ・講師のお話が安全・安心につながりました。安全は客観的なこと、安心は自身の気持ち、いずれも参考になりました。
- ・参加者の色々な声を聴けてよかった。
- ・各地区の取り組み状況を理解できました。
- ・地域によって防災の考え方が違い、自分の住んでいるベストの防災を考える。
  - ・日常の防災意識を高める積み重ねが大切だと理解できました。

## ～須賀新田地区の「抗震力」調査～

## 須賀新田自主防災会 藤嶋 武憲

平成25年1月13日、平塚市防災講演会で神沼先生の「M9 シンドローム」と「抗震力」の話があり、各自の努力により災害時の被害を軽減できる「抗震力」の表（別紙参照）の提示がありました。須賀新田自主防災会では地区の「抗震力」調査を実施し、防災対策の啓発と今後の防災対策に役立てることとしました。

### 「調査方法」

各世帯に「抗震力」の表を配布し、10項目について、理解している場合は1点、否の場合は0点とした。

各項目別の評価は全世帯の項目別の得点を全世帯数で除し、各項目別の抗震力を評価した。各世帯別で抗震力ありと認められる7点以上の世帯数の割合を算出し、須賀新田地区の抗震力を評価した。

### 「調査結果」

平成25年4月14日～4月30日

対象 須賀新田自治会員141世帯、回答世帯74世帯（回収率52.5%）

- 1) 抗震力の得点の低い項目、「壊れても潰れない家」36%、「居間や寝室の安全確保」42%、「家屋の地盤」「シミュレーション」いずれも55%
- 2) 得点7点以上の抗震力ありの世帯は35世帯で回答世帯全体の47%であった。

### 「今後の対策」

須賀新田自主防災会として、抗震力の強化策として、下記の点に取り組む。

- ① 家屋の耐震対策
- ② 家具の転倒防止、棚からの落下防止

須賀新田地区の危険箇所、避難所、消火設備等を記載した防災マップづくり



# 紹介します！

## 【最新防災ゲーム 「J-DAG」】

図上訓練<DIG>、クロスロード、避難所ゲーム<HAG>などの防災ゲームを使ってワークショップを実施することは、防災力を高めることに大いに役立ちます。ここに新しいゲーム<J-DAG>をご紹介します。

「防災を考える会・磯子」代表の片山晋さんが考案したゲームで災害発生直後の1時間に起こる事態を想定して設定し、地域でいかに対処行動をするかをリアルタイムに実践するゲームです。

約100世帯に自治会を想定して5、6グループに分かれて図上訓練を行います。机の上には町内の地図や住民名簿、資器材のカード、時間によって開く指示書がおかれ、各グループから本部要員を選出、電話もメールも通じないことを想定しトランシーブで交信しながら火事の起きた対処やけが人の救出など生死を分けることにもなる助け合いの行動を訓練していくゲームです。

ナレーション入りのDVDもありますが「防災塾・だるま」のホームページ (<http://darumajin.sakura.ne.jp/>) でどなたでも無料でダウンロードできますので地域での学習会で活用して下さい。要請があれば開発者の片山氏とひらつか防災まちづくりの会がサポートに何う事も可能です。



## 【お薦め防災図書】

### ◎井上公夫編著『関東大震災と土砂災害』（古今書院）

定価 3500円＋税、2013年9月1日発行

関東大震災では家屋倒壊後に発生した火災で10万人を超える方々が亡くなったのですが、延焼原因とされる強風と風向の変化については震災予防調査会報告から当時偶然にも台風と低気圧の通過時刻が重なったことにより被害を増大したこと、直前の豪雨と地震動による複合災害としての「土砂災害」の可能性について強調しています。

昨今の伊豆大島の土砂災害を契機に台風やゲリラ豪雨（かつては集中豪雨とっていた）などによる土砂災害対策が見直されています。今後の大規模地震についても気象現象のタイミングによっては未曾有の土砂災害や人家が倒壊するだけでなく、新幹線や有料道路、国道などの重要なライフラインが途絶する危険性が高く、1923年以上の社会的混乱が発生する可能性があります。またこの本では根府川の大規模崩壊地や横浜中華街から山手台地の被災地を訪れて調べています。今の被災地を歩くという記事のスタイルはあまり例が見られません。本書は、今後発生することが懸念されている土砂災害の啓発書として一読をお薦めします。

### ◎武村雅之著『関東大震災を歩く—現代に生きる災害の記憶』（吉川弘文館）

定価 2400円＋税、2012年3月発行

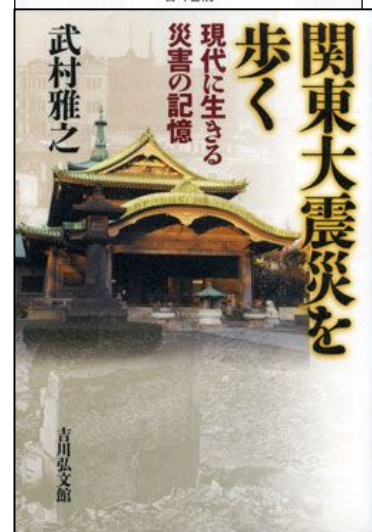
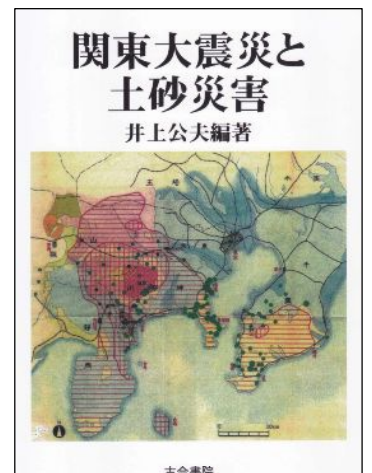
関東大震災の記憶を東京都23区内の関東大震災の慰霊碑や記念物、復興のモニュメントをくまなく訪ね歩き、そこで人びとはどのような思いで死者を弔い、どんな理想を持って瓦礫の街を蘇らせたのか復興への人々の生きる力を探りながら、読みやすいエッセイ風に書かれています。慰霊碑や遺構は戦災をくぐり抜けてきた大都市東京であるからこそ、残されたものは貴重です。以下、主な内容を挙げてみます。

プロローグ 関東大震災とは？・・・地震の原因と災害の特徴

- 1 被災の中心地墨田区を歩く・・・最大の被害のようす
- 2 慰霊碑は語る（市民の犠牲者、女性たちの震災、漂流する遺体、個人の追善）
- 3 受難の記憶（破壊の生き証人、避難と救済、明暗から生まれる教訓）
- 4 再生の記憶（復興への息吹、帝都復興事業、繰り返す災害）
- 5 寺院の移動と江戸文化の拡散（270年ぶりの大移動、寺町散策、ユニークな寺院）

エピローグ 東京を蘇らせた人々

是非この本を手にして現地を訪れてください。この本の続編として神奈川県版の発行を切に期待します。なお、本会会長の篠原は著者とともに歩き多くの平塚市内の震災慰霊碑の調査しており、その成果は神奈川アカデミー事業で生かされています。



【編集後記】 平成22年から平塚市との協働事業で「防災ニュース」を発行しましたが、協働事業が終わった今年度も地域の皆様の防災に少しでもお役に立てばと思い、防災ニュースを発行することにしました。内容等の問合せは下記までお願いします

ひらつか防災まちづくりの会 篠原 0463-34-4094 e-mail [goten463star@gmail.com](mailto:goten463star@gmail.com)